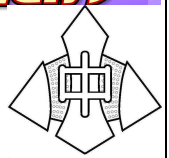


- 心身ともに健康で明朗な生徒
- 自主的に学習する生徒
- 責任を重んじ協調性のある生徒



令和3年6月28日(月)発行
【発行責任者】郡山市立小原田中学校長 熊坂 洋

手をたずさえて

大舞台での戦いに挑む選手たちへのエール！

6月25日(金)には県大会壮行会が行われました。県大会という大きな舞台での勝負に挑む選手たちへ全校生からエールがおくられました。

「何のための部活動か」、その「何のために」をもう一度見つめ直してほしい。そして、ここで、もう一度自分自身の部活動に対する意味付けを行うことが、県大会での戦う姿勢や戦い方に結び付いていくと思います。

『結果が出ないとき、どういう自分でいられるか。決してあきらめない姿勢が、何かを生み出すきっかけをつくる。』(イチロー)最後まであきらめない粘り強い戦いを期待しています。

そして、今回も全校応援をしっかりとリードしてくれた応援団、会の準備・運営にあたった生徒会役員の生徒達に感謝します。



写真上：特設陸上部・男子ソフトテニス部

写真下：女子ソフトテニス部・水泳の草野君
(硬式テニスの三瓶君は県中大会優勝を報告)

納得のいく演奏を期待します！

壮行会ではいつも入退場の演奏で花を添えてくれる吹奏楽部も、7月2日(金)白河コミネスで開催される吹奏楽コンクール県南支部大会での演奏が近づいてきました。昨年度は叶わなかった舞台です。是非とも自分達で納得のいく演奏ができるよう、頑張してほしいと思います。部長鈴木君の抱負です。

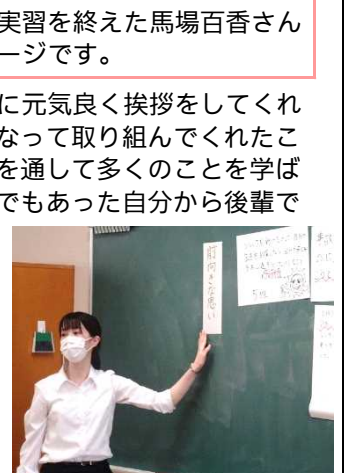
私たちは、7月2日に行われる吹奏楽コンクール県南支部大会に出場します。演奏する曲は「アトラス～夢への地図」です。アトラスとは地図帳という意味で、宝さがしの冒険のさまざまな場面が切り取られ、曲になっています。4月から練習を始め、およそ2ヶ月間基礎的なところから積み上げてきました。今年は例年よりも大会の日にちが早く設定されたため、時間がなかった中、自分たちで朝や昼休みなど楽器を吹く時間を見つけ、練習に励んできました。私たちの活動を支えていただいている顧問・講師の先生方や保護者の方々へ感謝しながら、一度きりの本番を全力で演奏してきます。(吹奏楽部部长 鈴木遼介)



後輩たちへのメッセージ

3週間の教育実習を終えた馬場百香さんからのメッセージです。

3週間大変お世話になりました。生徒の皆さんが毎日会う度に元気良く挨拶をしてくれたこと、積極的に声をかけに来てくれたこと、部活動と一緒に取り組んでくれたことなどの全てが嬉しく感じました。また、皆さんとのかかわりを通して多くのことを学ばせて頂きました。先生という立場、そして、先輩という立場でもあった自分から後輩である皆さんに伝えたいことは、長いようで短いこの中学校生活をより輝かしいものとするために、一日一日を大切に過ごし、昨日の自分よりも今日の自分の成長を感じてほしいということです。今の自分の意識・行動をひとつ変えるだけで、これからの未来は変わってくると思います。失敗を恐れず、積極的にいろいろなことにチャレンジし、成功も失敗もたくさん経験して下さい。必ずその経験した全てが皆さんの糧となります。自分の一度きりの人生です。悔いの残らぬよう全力で取り組み、楽しんでください。生徒の皆さんが更なる活躍ができることを願っています。馬場さんには福島県の中学校教員を目指し頑張してほしいと思います。



目的意識の明確化、そして進路選択へと… 3年高校説明会

6月7日・14日・21日の3日間にわたって、3年では高校説明会が行われました。14の高校の先生方に来校していただき説明を受けました。校長先生や教頭先生が来校される学校が多く、各校約20分という短い時間ではありましたが、熱心なお話をいただきました。生徒達は真剣な眼差しで話を聞いていました。また、体育館に机を持ちこんでの実施でした。講師の先生方からも好評で、メモもとりやすいいいアイデアだと思います。また、保護者の方々にもたくさん参加していただきました。

今回の説明会を自己の進路選択に生かすとともに、この機会に「何のための高校進学なのか」、「高校で何をしたいのか」という点について再考し、自分の考えをより明確なものにしていくことが大切です。



テストの後をより大切にしよう!

たでしょうか? 点数や順位が気になるころだと思いますが、テストに至るまでの「過程」、つまりテスト

今年度最初の定期テストが行われました。1年生にとっては初めての経験でした。手応えはあったでしょうか? 点数や順位が気になるころだと思いますが、テストに至るまでの「過程」、つまりテスト



当日までの自分の学習への取り組みや努力の度合いについて振り返り、反省を加えてほしいと思います。そして、右の4点を必ず実行しよう!

- ① 解答用紙が配付されたら、模範解答を作成する。
- ② できなかった問題は、なぜ間違った(できなかった)のかをはっきりさせ、分からなかったら、先生に自分が納得するまで質問し解決する。
- ③ もう一度何も見ないで問題を解いてみる。
- ④ 問題用紙と模範解答をファイリングする。これからの実力テストや入試対策に役立つ時が必ず来る。

「お○○○さま」の言葉を大切にしよう!

ある雑誌で、こんな話を讀んだことがあります。

Aさんは、新幹線の車中でホットコーヒーを肘に引っかけて、隣の座席の男性のズボンをひどく汚してしまっただけです。汚れを払う補助も十分にできないまま彼の下車駅が近づきました。Aさんは、ひたすらお詫(わ)びを繰り返しました。すると、その男性は笑顔で、こう話されたそうです。

「いいんですよ。おたがいさまですから」

「え、おたがいさま?」とAさんは思ったそうです。

私の方は何もされていないのに「おたがいさま」とは…不意を打たれたその言葉を頭の中で復唱したとき、その言葉の響きにAさんは気持ちが少し和(なご)む感じがしたそうです。人は誰もが少なからずどこかで迷惑をかけ合いながら生活している。だから許し合うことこそ大切にしなければならない。彼はそのような思いを込めたのだろうとAさんは考えたそうです。

この雑誌の話に出てきた「おたがいさま」という言葉は、見返りを期待せず、かかわりを大切に作るボランティアの精神を表す言葉だとも言えます。あの阪神・淡路大震災(1995年1月)で被災した人たちが、新潟県の中越地震(2004年10月)の際に真っ先に駆けつけてボランティア活動を行い、「おたがいさまですから」と話していたと聞いたことがあります。

このように、「お」と「さま」で頭とお尻にはさんで相手を敬(やま)い、思いやる気持ちを伝える言葉は私たちの生活に数多く息づいています。

「おたがいさま」、「おせわさま」、「おかげさま」、「おつかれさま」など…

どの言葉にも柔らかい温かさが感じられます。

中体連の各大会に臨んだ選手の方々には心から「おつかれさま」という言葉を送ります。そして、選手のみならず、指導して下さった先生方、応援してくれた友だち、みんなを支えてくれたお父さん、お母さんや家族の方々に対して、「おせわさま」、「おかげさま」という気持ちを忘れてはなりません。

「おたがいさま」、「おせわさま」、「おかげさま」、「おつかれさま」など…頭に「お」がつき、「さま」で終わる言葉、このような心と心をつなぐ言葉をこれからも大切にしていきたいと思ひます。